

夏の主役「春風火舞」～愛鷹地区コミュニティ祭にて～



「私の福祉の原点となったあしたかホームの教え」

あしたかホーム 施設長 深沢 康久

あしたかホーム近くの神明宮の東隣に、あしたかホームのお墓があります。身寄りがなく、家族による引き取り手のない方の遺骨が納骨されています。利用者のお墓を管理する高齢者施設は今でも珍しく、亡くなった後も「人とのつながりを大切に」するというあしたかホームの考え方がここにあります。

あしたかホームの墓地は、昭和56年に留魂の碑として建立され、ホームで亡くなられた方を含む50名程の遺骨が現在も納められています。私自身も30年ほど前になりますが、あしたかホームの介護士として勤務していた時に、お世話をさせていただいた方の遺骨を、生前にとっても仲の良かった方の隣に納めました。人とつながりを大切にするという考え方の元になったのは、春風会の創設者の思い「社会の老人を看とる」という高齢者が自立した生活が送れるように、地域社会全体で見守り、支え合うという思いが現在まで引き継がれており、「人は社会とのつながりの中で生きていく」という教えを大切にしてきたからこそ、施設でお墓を守ってきたと考えます。

今年の4月から、あしたかホームでは、コロナ感染による面会制限を緩和し、予約なしに家族等の面会ができるようになりました。利用者にとって、家族との関りがどれほど大切なものであるか、高齢者施設で働く人であれば、わかっていると思いますが、家族にしかできない心の支えや家族水入らずの外出、孫や子供たちの成長を見守ることなどは、人生をより豊かにし、家族にとっても大切なことであると理解しています。今後とも利用者が地域や社会とのつながりの中で、人生に喜びや幸福感を持てるように施設運営を行ってまいります。

今年の夏も、あしたかホーム納涼祭では、職員が「火舞」を行います。ホームで亡くなった方が、お盆の時期にトーチの灯を頼りに迷わずに施設に戻って来られるようにと、火の舞を行ったことが始まりです。

桜の花が咲く中、先代理事長のお墓とあしたかホームのお墓に、あしたかホームの施設長に就任した報告をして、「今後とも私たちを見守っていて下さい」と手を合わせてお願い申し上げます。合掌。

社会福祉法人 春風会 合同職員 研究発表会



令和6年5月17日（金）に沼津プラサヴェルデにおいて、第27回法人合同職員研究発表会が開催されました。

今年にはコロナ感染症の5類移行後初めての研究発表会でしたが、この3年間にしっかりと身に付いた感染予防対策を考慮し、規模を縮小してホールBの小ホールに会場を変更しての開催となりました。参加者も、副主任以上の役職者120名に限定して行いました。

開会に先立ち、伊豆中央ケアセンター堀内統轄施設長兼理事より「この法人内の合同職員研究発表会は、各施設が一堂に集まる年1回の場です。各施設の良い点や新しい取り組みを聞いて自施設に持ち帰り、業務改善を図りながら法人全体の底上げをしていくことを目的にしている研究発表会です。今年の発表が皆さんの参考となり、今後の業務に活かされていくことを期待しております。」と挨拶がありました。

職員の特別表彰・永年勤続表彰に続いて各施設から9題の研究成果が発表され、今年度は優秀賞に3題が選ばれました。

ここでは、その優秀賞3題を紹介させていただきます。

『ASHITAKAの サグラダ・ファミリア』 〜永遠の未完成〜 あしたかホームショートステイ

あしたかホームショートステイでは、5年前に「また来たいショートステイ」をテーマに月の行事やレクリエーション（以下、レク）をわかりやすくしたカレンダー作成等の取り組みを行ってまいりました。しかし新型コロナウイルス感染症の影響で活動に制限がかかり、静止的なレクが多くなり、利用者が楽しめているのか疑問に思い、改善の必要を感じました。新型コロナウイルス感染症が5類になったのを機に「動くショートステイ」を目標に活動的なレクをテーマとしました。

具体的な取り組みとしては、第一に現状のレクの把握をし、第二段階としてよりレクが提供できる職員配置を確保するために介護周辺業務の見直しや記録作業の短時間化を図りました。その上で活動的なレクを提供し、随時利用者及び職員にアンケート調査を実施し

ました。活動的なレクの種類を増やすとともに、利用者個々のニーズに合わせたレクを自己決定・選択できるようにしたこと、以前に比べて利用者の活気が高まり「楽しみにしている」などの言葉が多く聞かれるようになりました。職員もレクに対して意識が向上し、今までの「レクを提供する」から「レクを利用者と一緒に楽しむ」という相乗効果がありました。また「利用者を楽しませたい」という思いは、ユニット内の環境変化にも繋がり、今まで以上に四季の掲示物や日々の活動内容が見える化されたことも収穫でした。

今回の取り組みが一過性のものであれば、職員が異動した際も継続できるようにレクのマニュアル作成を進め、今後高い水準のレクを提供していきます。



「その人らしい暮らしを 目指して」 北狩野ケアセンター グループホーム

グループホームは認知症の高齢者に特化した入所施設で、住み慣れた地域で可能な範囲での家事を分担しながら生活を送るのが目的です。しかし実際は介護度の上昇やADL、認知機能の低下により毎日の日課に変化がなく、コロナ禍もあり家族や地域との関わりが減っていました。「その人らしい暮らし」を実現するために情報収集を行い、センター方式シートに記入し、プランを立て実行し記録と写真を残していきました。個々の得意な家事作業を日課にして、好きなことをレクリエーションとして習慣化しました。

在宅時に自宅で野菜作りをしていたが、転倒を機に畑作りを諦めていた利用者に対し、私たちに何ができるかを考え、地域の方の協力もあり施設内の庭に畑を作り、野菜を育てることにしました。苗選び、植え付け、水やり、観察が

日課となり徐々に生活意欲の向上が現れ、一緒に作業する他の利用者とのコミュニケーションが増え、表情も穏やかになってきました。初収穫した時は笑顔が溢れ、「この野菜はぬか漬けがおいしい」との助言から調理活動を職員と一緒に行いました。収穫した野菜で家族を招待してバーベキューを開催し、コロナ禍以降、利用者と家族が久しぶりに交流する機会になりました。

「次は冬野菜を植えよう」と他の利用者からも声があがり、大根、人参などを植え、年間を通して、全利用者9人が野菜作りと調理活動を継続できました。

取り組んだ活動から学んだことを活かし、認知症があっても楽しみや役割を果たし「その人らしい暮らし」を今後も目指していきま



「干し芋もん プロジェクト」 もくせい苑



毎日元気に通所されている利用

者は仕事熱心で、いろんな活動をしています。主に自主製品の製作、下請け作業、施設外就労、各種販売や運搬等、一人ひとりの意向に寄り添いながら幅広く展開していきます。そして、今回の研究テーマ

である「干し芋づくり」については、もくせい苑の農園で栽培している農産物の中でも特に生産量の多いさつまいもに着目し、生産・加工・販売についても利用者と共に活動し、喜びややりがいを感じられるよう、農業・福祉との連携について実践していくために研究を進めてきました。

今回はじめての取り組みであり、保存方法や調理方法など、色々と試行錯誤しながらどうしたら美味

しい干し芋が作れるのかを皆で考え、何度も試作づくりを行いました。また、試作づくりを繰り返すことで手順が身につつき、利用者が積極的に行う中で少しずつ完成品に近づくことができました。残念ながら今回の研究では地域での販売まで至りませんでした。ぬくもりの里において販売をすることができました。

今後は地域との繋がりを大切にしながらより多くの方々にもくせい苑の農園を知ってもらい、好評価をいただけるような美味しい農産物を作り、多様な事業展開を目指していきます。



永年勤続者の紹介 40年勤続



プレーゲあしたか
宮代 夏代 職員

40年間で色々な職種を経験し、利用者や職員と接する中で学んだことは数知れません。特に園訓で謳われている「人の身になって考える」ことは日常生活でも大切なことであり、いつも心掛けています。

ここまでの道程の中で、様々な出会いがありました。特に思い出深いのは、当時市内最高齢者（101歳）の方が施設入所後に高齢のため食事や水分も摂れなくなり、給食課で試行錯誤の結果、給食から提供されたスイカを一口食べ、元気になられ107歳まで楽しく元気に過ごされたことでした。



私は、この「広報はるかぜ」75号までと、前身である「あしたかホームだより」の創刊号から35号まで全て保存しています。

春風会のあゆみであり、私の懐かしい思い出の詰まった宝物です。

これからも健康に留意し、皆さんのお役に立てるよう頑張っています。

令和6年 特別表彰者

春風会では多年にわたり施設の発展に貢献した職員に対し特別表彰を行っています。

令和6年度は以下の2名を表彰します。

- 木内和実（法人本部 本部長）
- 荻 将宗（プレーゲあしたか 施設課長）



特別表彰者の2名



永年勤続表彰者代表

令和6年 永年勤続表彰者

あしたかホーム関連エリア

- [40年]** 宮代夏代
- [30年]** 高橋順子・小野博信
- [20年]** 三井薫・長岡美和子・鈴木友美
- [10年]** 壽福恵子・福室奈央・丸岡未央・渡辺瑞季・天野千豊・金子淑乃・岩本有希・吉川順子・鈴木聖矢・吉川保成・榎原奈津・藤井智栄子・武井香那美・副枝みき

伊豆中央ケアセンター関連エリア

- [30年]** 堀内和憲・鈴木昭子・豊島つぐみ
- [20年]** 田村美和・小山久子
- [10年]** 岩本裕也・今井真琴・原とし子・山木城司・寺本陽子・大川緒里江・大城榮一

めぐもりの里関連エリア

- [30年]** 飯田洋美
- [20年]** 永田信人・鈴木由祐・岩本竜太・宮本美智子・小池久美子
- [10年]** 西島夏代・高梨紀子・高橋光代・原一実・碓井実

みはるの丘浮島関連エリア

- [20年]** 芹澤泉美・柳津なみ・杉山真弓・堀内志穂・佐野恭子・山田洋子・高橋園美・浅井友里奈
- [10年]** 榎原應・植松義行・芦川廣美・宅野美幸・藤森真歩

沼津市立高尾園関連エリア

- [20年]** 中村隆悟
- [10年]** 永野加代子・内田圭美

新たな仲間たちを迎えて

新規採用された皆さんへ

社会福祉法人春風会 理事長 石川 三義

皆さんは春風会の職員として、また社会人としての第一歩を踏み出しました。期待と不安、緊張で胸が膨らんでいると思います。春風会は約50年の歴史があります。この50年の間に地域の皆さんから信頼され期待や高い評価をいただけてきました。ぜひ皆さんもこれまで50年の間法人が築いてきた伝統と歴史を踏まえ、更に地域のために、そして高齢者や障害者、子どもたちのために一生懸命ご尽力をいただきたい。



令和6年度
会福祉法人春風会
辞令交付式

春風会では、令和6年4月1日に今年度採用の新規職員の辞令交付式を行いました。今年度の同日付け新規採用職員は学卒者9名、中途採用者2名の計11名です。式では全員に辞令交付が行われ、新規採用職員を代表し、あしたかホーム短期入所介護士として勤務する久保田風咲さんが代表挨拶を述べ、石川理事長からの訓示が行われました。



プラムの「ホームメイド」

～そこに作り手の心が見える～

就労継続支援B事業所プラム

伊豆市の特産物の白びわ商品化したくて手がけた商品
白びわの枝で染めたあずま袋は土肥の高級旅館のアメニティとして納品しています



白びわ染め
あずま袋

畳のへりは強くて丈夫
これで“お薬手帳入れ”や
ペンケース、生活の小物たち
を作成
根強い人気商品
海外のお土産にも・・・



畳のへりの小物たち

どこへでも可愛くくっついていやしてくれる“ねこぼぼ”
これはすべて“あっくん”の手作り 売れ筋No.1



あっくんの
ねこぼぼ

プラムの作品は「ふらっと月ヶ瀬」にて販売しています。
問い合わせ先：プラム(0558-85-1919)まで

春の遠足



毎年恒例の春の遠足は新江の島水族館を訪れました。雨の予報もなく一日過ごしやすいた陽気の中で利用者、家族、職員と総勢42名で大型バスを貸し切っ

て出かけました。一年に一回のお楽しみみの行事で興奮を抑えきれない様子でバスの中は大きな声が響き渡っていました。新江の島水族館の目玉はイルカのショー。立ち見ではありましたが、柵から身を乗り出し、食い入る様子で眺めていました。家族より「うちの子はね、魚とっても好きなんです。ですが、私一人で連れていくの

は大変なので、良かったです。水族館なんて何十年ぶりかしら。」と嬉しそうに話されていました。当日の昼食は自由となっていた為、自宅よりおいしそうな手作り弁当を用意された方や、水族館のカフェでシラスの炊き込みご飯を注文した方など笑顔いっぱいに召し上がっている姿が見られました。帰りのバスの中では早速、「来年も行きたいです。」「また、企画してくださいね。次はどこに行くの？」と目を輝かせていました。次回はどこに行こうか、また楽しみにしていてくださいね。

さわやかな香りを地域へ
～高尾園ハーブガーデンの
取り組み～



4月27・28日、キラメッセ沼津にて「第98回みどりまつり」が開催され、私たち高尾園も初めて参加させていただきました。長い自粛期間の後久しぶりの外部行事参加で、どのようにしたら高尾園の特徴を来場される方々に伝えられるかと、出店のイメージ作りからはじめました。

丁度その時期、香りの良いハーブは、ポプリ（匂い袋）として価値があることを知り、ポプリ作りが利用者の日中作業として、更には販売をする事によって社会参加に繋がるのではないかと考え、まつりへの出品を目指すことになりました。

ポプリ作りでは、利用者には乾燥したハーブを細かく切る作業を担当してもらいました。屋内で無理なく行える作業となり、

参加者の幅が広がりました。職員は商品化に向けて、どうしたら香りを長持ちさせることができるか、どうしたら来場者の目を引くことができるだろうか、ポプリ作りの経験がない中で、試行錯誤しながら取り組みました。まつり当日には、多くの園芸店や飲食店が並ぶ中、苗や手芸品等に加え、皆で協力したレモンガラスのポプリを用意することができました。初参加に向けてイメージを膨らませながら、部署を越えて協力できたことは、今回の大きな成果だと思っております。

久しぶりに外部行事へ参加し、会場での利用者の表情や、来場者との関わりを通して、改めて地域と共にあることの大切さを感じました。

今後も地域に根ざした施設を目指していきたいと思えます。



みはる祭り



4月14日にみはる祭りを開催し、昼食を兼ねて模擬店メニューを野外で食べていただきました。

当日は快晴で桜が綺麗に舞う中、利用者は久しぶりのお祭りに朝から笑顔が多く見られました。帽子をかぶり準備万端に「食べるぞ!」と皆さん意気込んでいました。

ユニットごととテントに集まり、好きな食べ物をリクエストしながら外での食事を楽しみました。やはり行事の際は普段と違った環境が刺激となり、いつもより皆さん本当によく召し上がっていました。

特に人気だったのがチョコバナナと焼きそばで「甘くて美味しくしてお祭りですか食べられないから嬉しい」など様々な声が聞かれました。



焼きそばは鉄板で焼いて提供されていたことから「外で食べるから楽しい!」と大変好評でした。

まだ家族と過ごすみはる祭りとはいえませんが、来年はもっと利用者にとって楽しめるよう工夫し、感染症の対策をしながら様々な行事を計画し開催していきたいと思えます。

看取り支援

「家族の声」

伊豆中央ケアセンター

伊豆中央ケアセンターでは施設でお看取りした遺族の皆様にはアンケートを実施しています。一部をご紹介します。

施設での最期を迎えたことについてどう思っていますか?

・深夜早朝だったので、死に目には会えませんでした。顔もまだ温かく大往生だったと思います。十年にわたりお世話になりました。感謝の言葉しかありません。

職員（看護師・介護士）からの状態報告は充分でしたか?

・はい、充分でした。最期家族も会いにきてそれぞれお別れの準備ができました。

なにか改善点はありますか?

・この数年コロナ禍もあり、以前のように会えなかったのは仕方ないと思います。

いちいち電話でという訳にはいかないで、今はやりのSNSでの情報提供があったらよか

ったかもしれません。職員のケアで気になることがありましたか?

・看取り期に入る以前のことですが、骨折して病院へ入院中、手術、退院後の通院をしていたところが本人も私達もきつかったです。病院では随分待たされた記憶があります。

面会の都度職員の方からお声がけ、挨拶があつて安心できました。

その他気づいたことなどありましたらお聞かせください。

・デイサービス、訪問介護、入居と長期間ありがとうございました。

・日常の写真をたくさん撮っていただき「お便り」を毎月楽しみにしていました。

・遺影の写真もケアセンターで一コマで、嬉しそうに笑っており、今でも声が聞こえてきます。本当にありがとうございます。

遺族の皆様のお気持ちをしっかりと受け取り、今後もより良い看取り介護を行っていくために励みにさせていただきます。



デイサービスセンターみはるの丘の浴室には手作りのマットが沢山あり、毎日椅子や足元に敷いて利用者が入浴時に使っています。

平成二十六年より利用されている市川や多子様（九十二歳）が、ご自宅で不要になった布やタオルなどを使ってマットを一枚一枚手縫いで丁寧に作って下さいました。

なぜマットを作ろうと思ったのかご本人にインタビューしてみました。

Q なぜ手作りマットを作ろうと思ったのですか？

A 入浴時、お尻に敷いていたタオルが薄くて使いづらかったので自発的に作ってあげたいと思った。

Q 八十八歳になった時、なぜ八十八枚作ろうと思ったのですか？



A

祝い年だし、一番初めに作った物を皆さんが使っている姿を見たり、喜ばれてる姿を見て作りたいと思った。

Q

作り方は？

使わなくなった布団の布や洋服、肥料の袋等、タオルを同じ寸法に切って数枚を合わせて手縫いで作っています。縫う時は心を込めて縫っています。

Q

今後の目標は何ですか？

九十三歳になるまでに九十三枚作りたい。今年に入って五十枚作りました。すべては心だから皆さんが喜んで使ってくれば私はそれで十分だから。



あしたかホームデイサービスでは日々書道教室のレクリエーションを行っています。

利用者は、「昔はもつと上手く書いていたのよ」「何十年ぶりに書くから下手くそなの」と話しながらも、いざ筆を持つと鋭い眼差しで見事な書体を魅せてくれます。私たち職員は、立派な作品をホームの廊下に飾るだけでは勿体ないと感じ、昔取った杵柄ではないですが書道展に出展してはどうかと考えました。そこで参加者を募り、全国

書画展覧会運営委員会主催の「ふれあい書道展」に令和元年十二月より参加することになりました。

参加当初は「こんな習字を全国の書道展に出すなんて恥ずかしい」と参加に後ろ向きな姿勢も見られていましたが、石川理事長の奥様指導の下、書道展に向けて日々練習をしてきました。今回表彰された一部の利用者を紹介しますが、【特選】【奨励賞】と功績を残しました。石川理事長より表彰を受け、とても喜ばれておりました。今後も利用者が生きがいを感じる書道教室を継続していきます。





デイサービス 野菜作り



デイの新しい取り組みの一つとして、畑で野菜を作りたいと希望を受け利用者の散歩コースの一箇所に畑を作っていたきました。地域性で畑作業は得意な方々が多く、楽しめるプロگرامになりました。季節の野菜として4月下旬にオクラの種と大葉の種の苗づくりから始めました。ポットに土を入れて種を植え付け約2週間で発芽。立派な苗となり畑へ引越ししました。この月は天候が悪かった為、職員の手によって畑へ植え付けを

行いました。ここから悲劇の始まり：なんと苗の葉が落ち始めたのは回復と同時に利用者も散歩をしつつ、畑へ行ってみると倒れた原因について「オクラは根を傷つけるとだめなんだよ。」と植え付け時の失敗を指摘されました。その後は丁寧な説明を受けて「大丈夫だからしつかり育てていこう！」と励ましの言葉をいただきました。種から育て栽培するまでに失敗や思い通りにいかない事もありましたが、利用者にはアドバイスをいただきながら、野菜作りを共に楽しんでいきたいと思えます。今までは施設の外周をただ散歩することにより散歩に楽しみができ、利用者の意欲向上にもなっています。



もくせい苑発

和室のリニューアル

「バリアフリーのフローリングでみんな快適」

就労継続支援B型事業所「もくせい苑」は、平成23年4月に現在の田方福祉村に移転開設しました。当初定数30名に対し22名の利用者でゆったりとした環境でしたが、施設も13年が経過し利用者も27名となり縫製品づくりや下請作業も増え手狭となってきました。当時は、最新の資器材の導入や24畳の和室は、利用者の昼食会場として、また、保護者会や障がい部会の各種会議にも利用しておりました。しかし、施設も経年劣化により、畳の傷みが生じ「つまづき」等による転倒の心配もありました。更に、利用者やその保護者も高齢化が進み、長時間和室での昼食や会議が困難な状況となっています。

中には、自前の椅子を持参しての出席者も見受けられるようになりました。

この様な状況を改善するため、4月に和室をバリアフリーのフロアリングにし、上履きを脱がずに出入りすることが可能となり、転倒の危険も改善されました。また、テーブル及び椅子も新しいものに

買い替え利用者や保護者の方々からも「楽に出入りが可能となり腰への負担も軽減され助かります。」との感想も頂きました。これからも、皆さんが安全で安心して利用できる施設を心掛けま

改修後のフローリング



改修前の畳フロア

なかいず認定 こども園

新型コロナウイルス感染症予防の関係で断念してきたバスを利用しての「親子遠足」を、5年ぶりに実施しました。伊豆シャボテン動物公園では、好天にも恵まれ親子で仲良く散策したり、動物への餌やり体験を楽しんだりすることができました。お昼過ぎには、広い園内を元気に走り回る子どもたちが目を細めながらも、少し疲れが見える親御さんの姿もちらほらと。

帰りのバスの中ですやすやとお昼寝する子どもたちの顔を見て、いとかに充実した一日であったかが分かります。特にいつも弟や妹がいてじっくりと関わって



もらってなかったお兄ちゃんお姉ちゃん、この日ばかりはお母さん、お父さんを独占できて大満足だったようです。

親も子も大満足な親子遠足、実は計画する方は少し不安もあります。今回のように好天に恵まれれば問題は無いのですが、雨天の場合が困るのです。雨天でも楽しめる場所が、あまりないのです。バスも施設も予約制で簡単には変えられない現在、コロナと変わる週間天気予報には気を揉みます。実際、昨年度は雨天のため中止せざるを得なくなりました。まあ、天気にも文句を言っても仕方ないですね。ともあれ今年も充実した一日で、とてもよかったです。



あまぎ認定 こども園

幼児組親子でサイクルスポーツセンターに行きました。最近の遠足は子ども一人に両親で参加という家庭も少なくな、それだとバス代と入園料でかなりの高額になってしまふことや、その他諸々あり、今回は初めて現地集合にしてみました。保護者からは好評だったようです。

まず最初はクラスごと丸くなり自己紹介をしました。園は送迎時間がまちまちなので、こうして全員が顔を合わせる機会も貴重です。その後は自由となり、職員も分散して見守ります。子ども達といえ、普段おとなしい子が喜々として先へ先へと挑戦していたり、逆にしっかり者の子がべったりと甘えていたり、園とは違う一面が垣間見えました。こういう姿を共有できることも遠足の良さのひとつです。

お弁当はクラスごとに食べまし



たが、皆さんすっかり打ち解けて、クラス内の親睦が深まっていることを感じました。そのまま最後はクラスごとに同じコーナーで遊ぼうということ、メリーゴーランド、巨大ジャンブルジム、面白自転車で分かれて遊びました。存分に遊んだので、解散後は皆さんそのまま帰るだろうと予想していたのですが、ほとんどの家族が残っていたので、親子共々楽しんでる様子が見えました。

今回私も子ども達と一緒にジェットコースターに乗り、童心に帰ったせい、ふと子ども時代の遠足の風景が蘇りました。遠足というものはこの歳になっても思い出されるものですから、来年はもっと楽しんでもらえるよう企画していきたいものです。さて、来年はどこに行きましょう？



介護職員初任者研修 講座開講のお知らせ

受講生
募集中

伊豆地区会場

【講義日程】

9月11日（水）～11月20日（水）
毎週水・土曜日の9:00～17:00の間

【講義会場】

プレーゲおおひと研修室
伊豆の国市白山堂 408-9
☎0558-76-7300

【講義費用】

受講料：10,000円
テキスト代：6,000円程度
その他実習の保険料が掛かります。
（総額20,000円程度）

申し込み・問い合わせ先

伊豆中央ケアセンター 0558-72-8111
ぬくもりの里 0558-76-6700

沼津地区会場

【講義日程】

9月10日（火）～11月19日（火）
毎週火・金曜日の9:00～17:00の間

【講義会場】

プレーゲあしたか研修室
沼津市市東椎路 1639-1
☎055-967-3400

【講義費用】

受講料：10,000円
テキスト代：6,000円程度
その他実習の保険料が掛かります。
（総額20,000円程度）

申し込み・問い合わせ先

あしたかホーム 055-967-1166
みはるの丘浮島 055-969-3355

令和6年度 社会福祉法人春風会 職員選考試験日程

令和6年度、春風会では以下の日程で春風会正職員の採用選考試験を行います。選考試験への応募は自由応募になります。希望がある方は、必要書類を法人本部まで郵送して下さい。

なお、準職員（パート）採用につきましては、随時行っております。募集状況などの詳細につきましては、ご希望の施設へ直接お問い合わせください。

（試験日程）	令和6年 8月16日（金）	集合 8：25	試験 8：30～
	令和6年 9月18日（水）	集合 8：25	試験 8：30～
	令和6年 11月28日（木）	集合 8：25	試験 8：30～
	令和7年 2月5日（水）	集合 8：25	試験 8：30～

（試験内容） 作文・個人面接

（応募書類） 履歴書（応募者全員・3ヶ月以内のもので写真添付のこと）
成績証明書・卒業見込証明書・健康診断書（新卒者のみ）

（試験会場及び書類送付先） あしたかホーム内 春風会本部
〒410-0302 沼津市東椎路 1742-1
電話：055-967-1166

令和
5年度

苦情・要望等受付状況報告

一人ひとりの思いを大切に! コミュニケーションこそが一番大事!!

令和5年度の法人の各施設に寄せられた要望・意見や苦情等は、法人全体で38件でした。一昨年に比較し、苦情件数は倍増した状況でした。新型コロナも5類に移行し、特養の家族面会の制限の緩和や在宅サービスも通常営業に戻りつつあります。その様な中、家族や利用者からの苦情・要望も多様化しており、私たちの提供サービスを再度振り返る必要があると感じさせる1年であったと思います。

昨年度受付をさせていただいた苦情の多くはデイサービスやショートステイ、訪問介護・看護等の在宅サービスやケアマネジャーの対応に対する内容が多く、特にケアマネジャーやサービス事業所の職員の思い・考え方や利用者や家族の思い・考え方の食い違いによる意見が多く寄せられ、利用者本人とのコミュニケーション

を図ることは大事ですが、家族とのコミュニケーションも十分に図り、課題を共有して意見交換をすることで、多くの苦情・要望は未然に問題化を防ぐことが出来たのではないかと思います。

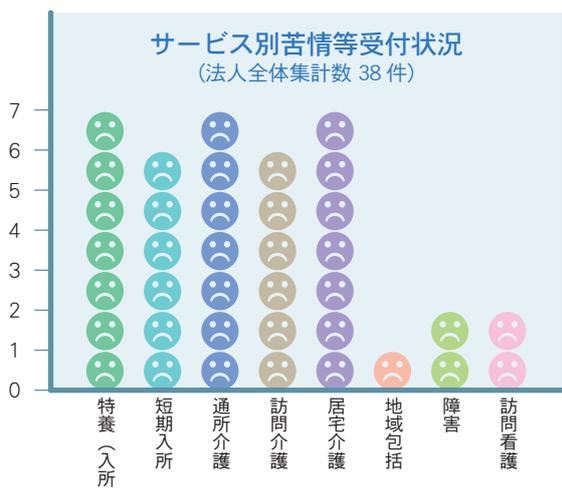
5月24日にあしたかホームで開催されました、苦情解決第三者委員会では、第三者委員の皆様からご意見と助言をいただきました。

『利用者や家族の皆さんが、お世話になっているという感謝の気持ちを持たれると同時に、利用料を支払うことで権利意識を持たれ、施設側と対等な立場となっています。施設や職員に対し今まで以上にシビアに、プロフェッショナルな対応と質の高いサービス提供が求められていると思います。「お金を払っているのだから当たり前!」と思われる方もおられると思います。普段からコミュニケーションを含め、家族の思いを担当者だけではなく、関わりを持つ職員全員が共有し、同じ対応をしていくことがこれからはより求められていくことなると思いました。』

『人それぞれの考え方の違いはあり、クレームをゼロにすること難しいと思います。ただゼロに近づける努力は必要です。苦情等により職員が委縮してしまわないようにどう対応したら良いかをみんなで考えていくことが大事です。みんなで情報を共有し、対策をみんなで考える組織での対応が必要であると思います。』

『車の運転も地域の人たちは常に見ています。みんなに見られているという意識を持ち、地域の模範となるよう努めて欲しいと思います。』

私たちは、いただいた意見を参考に、今後の事業運営に役立てる様にしていきたいと思っています。



- 春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL (055) 967-1166 (代) FAX (055) 967-3566
- 特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター
〒410-2402 伊豆市大野304
TEL (0558) 72-8111 (代) FAX (0558) 72-7297
- 特別養護老人ホームぬくもりの里
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-29
TEL (0558) 76-6700 (代) FAX (0558) 76-7511
- 特別養護老人ホームみはるの丘浮島
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3355 (代) FAX (055) 969-3385
- 障害サービス 生活介護 沼津虹の家
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL (055) 967-2220 (代) FAX (055) 967-3566
- 障害サービス 生活介護 あおばの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-429
TEL (0558) 76-6702 (代) FAX (0558) 76-6702
- 障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47
TEL・FAX (0558) 76-6755
- 原高齢者福祉センター
〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL (055) 968-4510 (代) FAX (055) 968-4511
- ふれあいデイサービス(デイサービス一般型)
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-3380 (代) FAX (0558) 83-3380

- 天城放課後児童クラブ
〒410-3213 伊豆市青羽根47
TEL (0558) 87-1080
- 中伊豆放課後児童クラブ
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-2911
- 救護施設 沼津市立高尾園
〒410-0001 沼津市足高156-1
TEL (055) 921-5722 (代) FAX (055) 921-5723
- ケアハウスはるかぜ
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3382 (代) FAX (055) 969-3385
- 小規模多機能施設 北狩野ケアセンター
〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地
TEL (0558) 72-8811 FAX (0558) 72-8860
- 地域密着型特別養護老人ホーム プレーグあしたか
小規模多機能型居宅介護支援事業所
〒410-0302 沼津市東椎路1639-1
TEL (055) 967-3400 (代) FAX (055) 967-3401
- 地域密着型介護老人福祉施設 プレーグおおひと
〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL (0558) 76-7300 FAX (0558) 76-7299
- 障害サービス グループホーム なぎの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437
TEL・FAX (0558) 77-1017
- 地域活動支援センター サポートセンター絆
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293
TEL・FAX (0558) 77-1221

- 複合施設 ふらっと月ヶ瀬
〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1
- あまぎ認定こども園
TEL (0558) 85-2030 FAX (0558) 75-8880
- あまぎデイサービス(デイサービス一般型)
TEL (0558) 85-0816 FAX (0558) 75-8201
- 就労継続支援B型 事業所プラム(障害サービス)
TEL (0558) 85-1919 FAX (0558) 75-8201
- プラムカフェ
TEL (0558) 85-2551 FAX (0558) 75-8201
- 片浜・今沢地域包括支援センター
〒410-0874 沼津市松長12-3
TEL (055) 969-7050 FAX (055) 968-2177
- 伊豆市修善寺地区地域包括支援センター
〒410-2414 伊豆市本立野531-1
TEL (0558) 99-9301 FAX (0558) 99-9302
- なかいず認定こども園
〒410-2505 伊豆市八幡282-1
TEL (0558) 75-2810 FAX (0558) 75-2811
- はら居宅介護支援事業所
〒410-0311 沼津市原町2-7-11
TEL (055) 941-8333 FAX (055) 941-8334